

AI・ロボットを実装した日本社会: **ワークプレイス・ウェルビーイングと生産性向上に向けた標準化戦略:** **Part II**

An AI-Robotized Japanese Society: **A Standardization Strategy in Search of Workplace Well-being and Productivity Growth:** **Part II**

主催/Organizer: キヤノングローバル戦略研究所/Canon Institute for Global Studies (CIGS)

2025年10月10日/October 10, 2025.
新丸ビル/Shin-Maru Building
東京都千代田区/Chiyoda-ku, Tokyo

Introduction

一般財団法人キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹 栗原潤/
Jun KURIHARA, Research Director, Canon Institute for Global Studies (CIGS)
Kurihara.Jun@canon-igs.org/Kurihara.Jun@gmail.com

AI・ロボットを実装した日本社会:

ワークプレイス・ウェルビーイングと生産性向上に向けた標準化戦略: Part II

本日のプログラム (発言者: 敬称略)

14:00-14:10 開会の辞 キヤノングローバル戦略研究所 理事長 福井 俊彦

14:10-14:15: 「セミナー概要

(Global Initiative for Safety, Health and Well-being (GISHW),

Institute of Global Safety Promotion (IGSAP))」

キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹 栗原 潤

14:15-14:35: 「EXPO2025大阪・関西万博での国際標準化フォーラム成果及び日本の標準化戦略」

日本規格協会 理事 野田 耕一

14:35-14:55: 「2025大阪・関西万博/GISHW国際シンポジウム～ウェルビーイングアプローチの総括」

「人と機械の協調安全、新時代のモノづくり」

大同大学工学部システム工学科 教授 吹田 和嗣

「建設の新時代を切り拓く革新技術」

セーフティグローバル推進機構(IGSAP) 理事 河田 孝志

14:55-15:10: 休憩

15:10-15:30: 「人・機械協調における高度コミュニケーション技術とウェルビーイング向上」

産業技術総合研究所 研究戦略本部 ウェルビーイング実装研究センター 研究センター長 谷川 民生

15:30-15:55: 「GISHWの新潮流：日本発『グローバル産学官連携』への挑戦」

「IGSAP beyond EXPO：ホリスティックアプローチの深化」

セーフティグローバル推進機構(IGSAP) 会長・東京理科大 大学院経営学研究科 教授 井上 悟志

「68ヵ国・地域の国際機関・企業との協創実現とこれからの日本のリーダーシップ」

セーフティグローバル推進機構(IGSAP) 理事 藤田 俊弘

15:55-16:00: 閉会の辞 キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹 栗原 潤

16:00: 閉会

AI・ロボットを実装した日本社会:

ワークプレイス・ウェルビーイングと生産性向上に向けた標準化戦略: Part II

Introduction

Global Initiative for Safety, Health and Well-being (GISHW)とは

国連が推進する「SDGs」、国際労働機関の「労働における基本原則と権利のILO宣言」、国際社会保障協会（ISSA）の「VISION ZERO（ビジョン・ゼロ）」の考えに基づき、持続可能で「安全、健康、ウェルビーイング」な未来社会の実現を目指す国際ネットワーク。

Institute of Global Safety Promotion/(一社)セーフティグローバル推進機構(IGSAP)とは

新しい安全の概念／技術「協調安全 (collaborative safety)／Safety 2.0」を提唱し、働く人の安全と企業価値の向上に貢献することを目的に2016年7月設立。
現在、海外の専門機関や企業などに受け入れられ、現在では国際標準化に向け活動中。多数の海外機関・企業と連携しながら、働く人の安全・健康・ウェルビーイングを推進。その取り組みは「技術」「マネジメント」「人材」「ルール形成」の4側面から展開する「ホリスティック・アプローチ」と呼ぶもの。技術で、働く人のウェルビーイングを高める「ウェルビーイング・テック」を提唱し、この分野でも世界をリード。

働く人の安全・健康・ウェルビーイングは今や、企業にとって最も重要な経営課題の一つ。多くの国際機関・企業と情報交換を密にしながら、世界の潮流に乗り遅れることなく、製造業／非製造業における働く人が、安全な環境のなかで、心身ともに健康で、生きがい／やりがいをもって仕事をする社会の実現を目指す。そのための最先端のソリューションを提供・推進する日本で唯一無二の団体。

AI・ロボットを実装した日本社会:

ワークプレイス・ウェルビーイングと生産性向上に向けた標準化戦略: Part II

Introduction

Global Initiative for Safety, Health and Well-being (GISHW)今後の活動

EXPO2025でのイベント成功を基に「安全、健康、ウェルビーイング」の質的向上に向け、様々な分野の専門家、更には一般の人々をも繋ぐグローバル・ネットワークに発展させる事が目的。

大阪大学産業科学研究所(SANKEN, formerly, Institute of Scientific and Industrial Research)及び大阪大学産業科学研究協会(Univ. of Osaka Research Association of Industry and Science (RAIS))が中心的役割を果たす予定。

RAISはSANKENの活動を産業界から助成し産学交流の促進を図る目的で1938年に設立される。産業界の設立功労者には、関西財界の有力者、例えば、伊藤忠兵衛(第二代)、小倉正恆住友本社総理事、佐々木駒之助日本生命会長、村田省藏大阪商船社長が名を連ねる。